竹表皮染色のキーポイントとなるであろう。

前処理はアルカリ処理即ち苛性ソーダ2～4％液中と70℃に昇温に10分間程度浸してやっと靱性を失わず，荒れもおこらずより能率的な染色を期待しうる。

(b) 染着量について

木竹材の染料の吸着量はFigⅠ FigⅡから推定しうるように布繊維に比して著しく少い。

直接染料のツキ板染色で50％前後である。結果を得たし，竹材は更に低く30～40％程度であった。これは材中の不純物が影響しているのだが，吸着量をあげることを意図すると前処理を無理しなくしなくてはならないので，その結果，材質がいたみ使用に供することが不可となるので，30～40％程度であった。これは材中の不純物が影響しているのだが，吸着量をあげることを意図すると前処理を無理しなくてはならないので，その結果材質がいたみ，使用に供することが不可となるので，30～50％以上の吸着を期待することは無理であろう。

今後は更に分散染料等の吸着親和性について試験することも必要であろう。

(12) 和家具セットのデザイン研究

研究員 鮫島 正登美

〔1〕目　的

和家具セットは古くからある日本のタンスを多少現代風にしただけで基本的にはほとんど変っていないが昔の収納タンスは衣類を入れ，運ぶ箱であったものが戦後，中味よりもタンスその物の外観を言うようになり，家庭を持つにふたつてのあたえられた生活のスペースと言うことを考えず，ただ大きくて豪華に見えれば，と言ったように見る人，もとめる人の見栄で，狭い室内の大半を家具に取られ家具の谷間に住んでいるようなありさまだったが最近では。少住宅用のユニット家具のデザインが色々と取り上げられるようになった。ここに発表するものはこの小住宅用，ユニット家具として設計したものである。

〔2〕概　要

洋服タンス

男子の洋服寸法　500mm×900mm×80mm（上着）

〃　550mm×1,300mm×95mm（オーバー）

女子のオーバー寸法　500mm×1,400mm×55mm

上記の様な寸法で，一シーズンに2～3着の洋服ですごすとすれば間口600mmもあれば2名から3名分は収納できる高さは1,800mmのものが最も多いが毎日，何度か使用している女子にとっては高すぎる。

我々が楽に手を上げられる高さは肩の高さと言われる。そこで下段を抽斗にしていたものを無くし，それだけ高さを下げ開戸の引手も一番無理のない高さに持ってきた。

上部のキャビネットはシーズンオフの物や，比較使用回数の少ない物を収納する。

整　理　箱

ワイシャツ，肌着，小物等我々が直接身につける物も以外に多く，これらを類別に整理し一目でで収納場所がわかるように開戸とした。整理の為には最上部まで盆にしてもよい。

整理タンス

整理箱の方に小物，肌着等を収納し洋服タンスに日常使用の服を収納することになるので，必然的に使用回数の少ないもの，シーズンオフの物を収納することになる。

タンス類で気をつけねばならぬことは，抽斗の奥行きである。材料の都合で，奥行の浅いものを多く見かけるが，多少高くついても深くすべきである。

上部，飾棚（宮）は無くしガラス引戸２段にし，このセットをまとめた。

材　　料

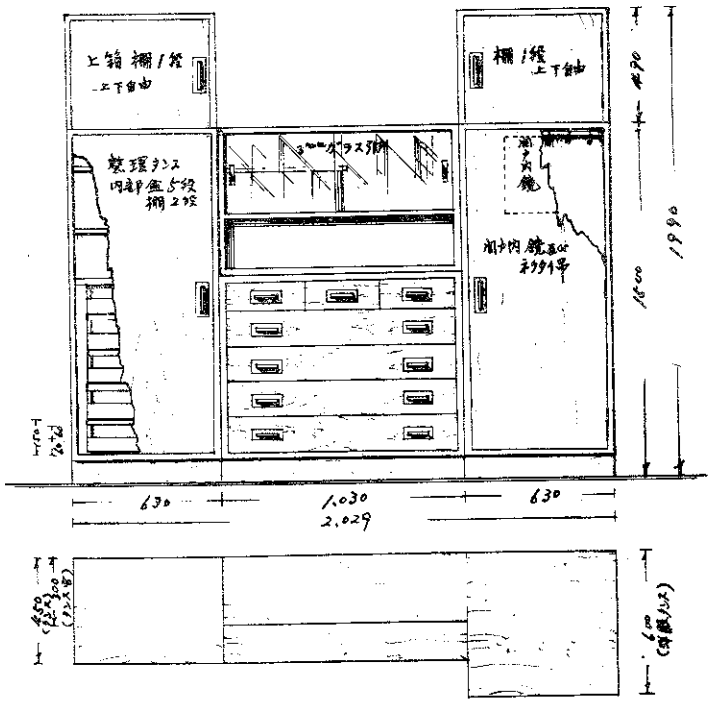
ウォールナット板目（杢目）化粧張り　練芯框にラワン材

構　　造

側及び開戸等すべて，フラッシュ構造とし練芯にロールコアーを使用，軽快且つ堅牢に反狂防止をし，組立てはダボ構造にした。

塗　　装

油性着色目止，アミノアルッド樹脂フラット仕上げ

〔３〕成　　果

ここに発表したものは狭い空間を有効に利用するため種々の用途を持たせたもので従来からある組合せ，ユニット家具とは違った良さをもち，この点では和家具としてのデザインの成功と言えよう。